



豊かな環境を生かした 「ふるさと学習」

相川小学校

今回は北上地区にある相川小学校を紹介いたします。

相川小学校は、北上地区の東側の海沿いにあり、学区は、小室・大室・小泊・相川・小指・大指・小滝の七つの浜からなっています。ワカメやホタテの養殖業が盛んな地域で、近くには南三陸金華山国定公園の「神割崎」があり、豊かな自然に恵まれています。

明治5年（一八七二）に学校が設置されましたが、三陸津波で一切が流出し、明治30年に現在の地に校舎が再建されました。昭和55年3月までは大指分校がありました。したが、統合し現在に至っています。

相川小学校の特色ある取り組みの一つに、生活科と総合的な学習の時間の中で行っている『ふるさと学習』があります。豊かな環境を生かして、1年生は「わくわく森」2年生は「相川沢川」での自然体験活動を行っています。また、地域で養殖業に携わっている方々に講師になっ



ていただき、3年生は「ホタテ」4年生は「ワカメ」の養殖体験活動を行っています。それらの学習をもとに、5年生で



は広く相川の海に関する個人研究を、6年生は「相川の達人」と題して地域の人材に目を向けた学習を行っています。

その他にも、磯浜探検や釣り大会、ろ漕ぎ体験、神割崎へのふるさと探検などふるさとの自然と人とのかかわりあいに重点をおいた活動を取り入れています。それらを通じてふるさとの良さを見いだすことも、ふるさとを愛し、よりよいふるさとを創っていくことと心を育てていくことがねらいです。

地域に根ざした教育活動を展開する中で、71人の子どもたちは楽しく元気に学校生活を送っています。



りんごを育てて25年

加藤 太一さん
恵美子さん
ご夫妻（飯野本地）

今回は、石巻地区でも珍しい、果樹栽培に積極的に取り組み、りんご園を経営されている加藤太一さん、恵美子さんご夫妻をご紹介します。

加藤さんご夫妻は、昭和32年に結婚され、来年で50年を迎えます。恵美子さんが鹿又のご実家から嫁いだとき、太一さんの家では稲作農業を営んでいました。

しかし、昭和60年ごろ、旅行で福島の実樹園を見学したことをきっかけに、新しい農業へ向かって生きていきたいという思いが強くなり、りんごの栽培を始めました。

りんごの栽培に適している地域は、太平洋側では北海道道庁から福島県までの地域と聞き、栽培を始めたのですが、宮城県は栽培の盛んな地域と比べると、昼夜の寒暖の差があまり大きくはないので蜜がなかなか入らず、若手など多くの果樹園を視察し、農業改良普及所へも度々足を運び試行錯誤を繰り返しながらの栽培でした。

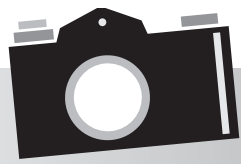
現在では、約80本のりんごの樹を栽培し、わせが始まる8月末から11月いっぱいまでりんご狩りを楽しむことができるようになっています。そのほか、年間を通して色々な果樹を育てていきたいの思いから、桃やナシ、ブドウなどの栽培も行っています。



りんごの栽培は、稲を作るよりも手間がかかり、毎日注意深く樹を観察しなければならぬので大変ですが、やはり実のできが良かったときのうれしさは格別であり、今後二人力を合わせて頑張っていくと意気込んでいます。

また、太一さんは人生という旅路を歌につづると、10年以上書き溜めた短歌を去年8月に出版しました。

これからも二人手をとり合いながら、仲良く歩いていきたいと願っています。



カメラトピックス

河北



● 昔の遊びに挑戦しました

11月11日(土)、「大谷地フェスティバル」が大谷地小学校で開催されました。地区の老人クラブ22人の方々が用意してくれためんこやおはじき、おてだまなどを使った昔の遊びを行ったり、竹とんぼ作りや縄ないなどにも挑戦しました。

河南



● 秋の収穫を無事に終えて

10月29日(日)、鹿又地域会議など9団体で組織する実行委員会主催の「鹿又かっきりまつり」が、鹿又小学校を会場に開催されました。

「かっきり」とは、昔、秋の収穫が無事に終わったことを神棚に報告し、大きな重ね餅を供えてから、手伝ってくれた人々や奉公人などと家族みんなで、つきだての餅をいただき祝ったことです。

雄勝



● 入賞おめでとう!!

10月29日(日)、雄勝公民館で“第16回硯のふるさと東北書画展表彰式”が行われました。応募総数6,051点の中からみごと246点の作品が入賞し、その制作者が表彰を受けました。

石巻



● ロボコンもきれいになりました

11月1日(水)、精神障害者回復者クラブ・つくしの会の方々が、社会参加活動の一環としてマンガロードモニュメントを清掃しました。